

# 滋賀県における水稲品種改良の歴史

滋賀県では、明治28年に農事試験場が設立されました。以後、農業試験場、農業総合センターを経て、現在の農業技術振興センターへと綿綿と試験研究が引き継がれています。

品種改良には、新しい品種を育成することと本県に適する品種を選定することが必要となります。このうち品種の選定については開設当初の明治28年から継続して実施しています。

滋賀県における新品種の育成は、品種選定より遅く、大正時代に入ってから本格的に行われるようになりました。しかし、明治時代にも特筆すべき事象がありました。明治31年に当時の場長高橋久四郎が「神力」×「善光寺」の人工交配を行い、明治39年に育成した「近江錦」は、人工交配による稲の育成品種として日本で最初の品種です。

品種育成が本格的に行われ始めた当初は、「旭」、「神力」、「渡船」などの在来品種を純系分離して行ったものがほとんどでした。その結果、純系分離で育成された品種が大正時代から昭和初期にかけて数多く奨励品種に採用されました。これらのうち、「滋賀旭20号、27号」は良食味品種として昭和40年代まで作付けされました。「滋賀羽二重糯」は糯品種の奨励品種として現在でも栽培されています。また、「滋賀渡船6号」は酒造好適米として復活し、県内の蔵元数社が「滋賀渡船6号」で醸造したお酒を販売しています。

その後、大正中期以降、人工交配も並行して行うようになりました。そして、徐々に人工交配が主流となり、現在にいたっています。

最近では、中生の良食味品種「秋の詩」を育成し、平成13年に奨励品種に採用しました。「秋の詩」は順調に作付けが伸び、現在、滋賀県の品種別作付面積第4位となっており、近江米を支える品種の一つとなっています。また、平成17年に高温年にも乳白・心白粒の発生が少ない早生品種「レーク65」を育成し奨励品種に採用しました。平成19年に育成した「雪姫羽二重糯」は、「滋賀羽二重糯」より餅が硬くなりにくい性質を活かし、特産物としての活用が期待されています。

# 滋賀県育成水稻品種一覽

表1 純系分離による滋賀県育成品種

	品種名	育成年		品種名	期間
渡船系	滋賀渡船2号	大正5年(1916年)	関取系	滋賀関取9号	大正7年(1918年)
	滋賀渡船4号	大正5年(1916年)		滋賀関取11号	大正7年(1918年)
	滋賀渡船6号	大正5年(1916年)		滋賀関取13号	大正7年(1918年)
	滋賀渡船白銀	大正14年(1925年)		滋賀関取白銀	大正14年(1925年)
	滋賀渡船26号	大正15年(1926年)			
神力系	滋賀神力3号	大正5年(1916年)	善光寺系	滋賀善光寺14号	大正7年(1918年)
	滋賀神力5号	大正5年(1916年)		滋賀善光寺白銀	大正14年(1925年)
	滋賀神力7号	大正5年(1916年)		滋賀早生善光寺白銀	大正14年(1925年)
	滋賀中神10号	大正6年(1917年)	三宝系	滋賀三宝16号	大正8年(1919年)
	滋賀早神12号	大正7年(1918年)	旭系	滋賀旭20号	大正9年(1920年)
	滋賀神力15号	大正8年(1919年)		滋賀旭27号	昭和8年(1933年)
	滋賀早神21号	大正11年(1922年)		滋賀早生旭28号	昭和8年(1933年)
	(後に滋賀神力21号と改称)			滋賀中生旭29号	昭和8年(1933年)
	滋賀神力22号	大正13年(1924年)		滋賀改良早生旭	昭和14年(1939年)
	滋賀中神24号	大正13年(1924年)	日出系	滋賀日出19号	大正11年(1922年)
	滋賀早神白銀	大正14年(1925年)	糯	滋賀葛糯17号	大正8年(1919年)
	滋賀中神25号	大正15年(1926年)		滋賀白糯18号	大正8年(1919年)
				滋賀羽二重糯	昭和14年(1939年)
寿系	滋賀寿8号	大正6年(1917年)			
	滋賀寿23号	大正13年(1924年)			

表2 人工交配による滋賀県育成品種

品種名	交配組合せ(母×父)	育成年
近江錦	神力×善光寺	明治39年(1906年)
江晚5号	神力×亀治	昭和8年(1933年)
北中7号	早生旭×銀坊主	昭和15年(1940年)
北中8号	早生旭×銀坊主	昭和15年(1940年)
治田旭	江晚5号×滋賀旭20号	昭和20年(1945年)
近江旭	近畿15号(農林8号)×滋賀旭27号	昭和23年(1948年)
伊吹	農林29号×中生豊年	昭和34年(1959年)
はがれしらず	農林29号×黄金丸	昭和40年(1965年)
びわ錦	農林29号×新山吹	昭和40年(1965年)
びわみのり	秋晴×ヤマビコ	昭和46年(1971年)
びわひかり	ヤマビコ×越南38号	昭和47年(1972年)
はつあき	日本晴×関東77号(コチカゼ)	昭和54年(1979年)
こころづくし	関系796×滋系42号	平成3年(1991年)
吟おうみ	西海146号×西海144号(ヤマチカラ)	平成3年(1991年)
吟吹雪	山田錦×玉栄	平成10年(1998年)
ゆめおうみ	越南135号×滋系51号	平成10年(1998年)
秋の詩	滋系54号(吟おうみ)×コシヒカリ	平成10年(1998年)
レーク65	ヒノヒカリ×キヌヒカリ	平成17年(2005年)

育成年は吟おうみ以前は種子配布開始年または奨励品種採用年とし、吟吹雪以降は命名年とした。

表3 突然変異による滋賀県育成品種

品種名	来歴	育成年
雪姫羽二重糯	滋賀羽二重糯のカルス培養による突然変異	平成19年(2007年)